

テーマ5 親をふりかえる

【ねらい】

◇これまでの親としての自分をふりかえり、互いに語り合うことを通して、これからの子どもとの向き合い方を考える。

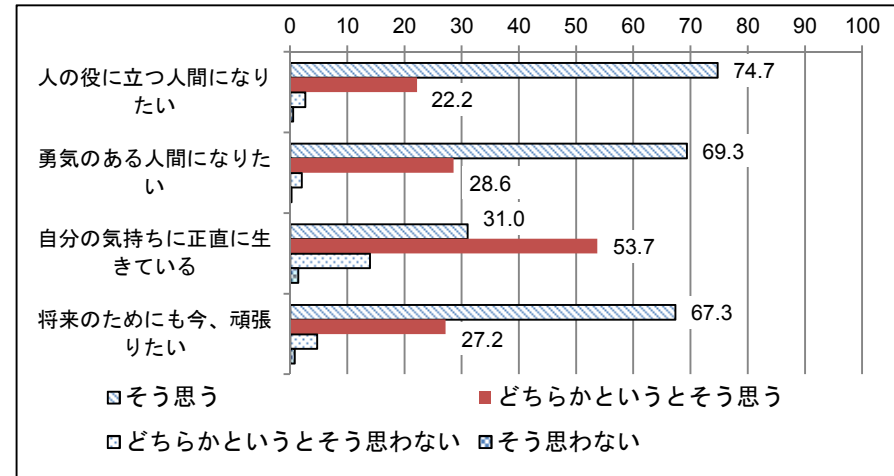
【活動の流れと支援のポイント】

- 4～5人のグループをつくり、自己紹介をする。(10人までであれば全体で話してもよい)
○グループの構成方法については、2ページを参照
○本音で語り合い、互いに支え合う親となっていくために、語り合いの中に出てきた情報については他言しないことを確認する。
○グループ内に一人進行役を設ける。
- 自分が中学生だった頃、自分の親にどんな親であってほしいと望んでいたのかをワークシート1に書く。
- 自分が書いたことをグループ内で伝え合う。
○右ページ(上)の資料を示し、子どもの自分自身についての評価と親として感じていることを比べてみてよい。
- 子どもから見た場合、今、自分はどのような親だと思うか、「よいところ」「よくない思うが直せないところ」に分けてワークシート2の欄に書き込む。
○始めから完璧な親などいないこと、それは子どもが中学生の段階になっても同様であることを伝え、自分の思いを素直に書き込むよう促す。
○「なかなか直せないところ」については、家族や他の親の力を借りたり、互いに支え合ったりすることで改善できないか考え合うよう促す。
- 自分が書いたことをグループ内で伝え合う。
- 話し合いの中で自分が気づいたこと、参考にしたいことをメモする。

【参考資料】

◇中学生の価値観について

%



【平成25年度 中学生の意識に関する調査(内閣府)】

「家族だからこそ・・・」心のノート中学生版より

<p>家庭は、一方では人間を生み育てるところ 疲れた自分をいやす、安らぎの場 しかし、もう一方では、つながりの深さゆえに 人を苦しめ、ゆがめる場ともなる。 他人だったら、そんなことはないのに 家族ゆえに 家族だからこそ 思いがあり、願いがあり、愛があるから そこに「ゆがみ」が生ずる。 他人だったら、絶対そんなことはないのに・・・</p> <p>孟子は 君子の第一の楽しみとして</p>	<p>一父と母がともに健在で 兄弟もつつがなく過ごしている一 ことをあげている。</p> <p>でも、これは、だれにとっても いつまでも続くものではない。 早いか遅いかはあったとしても・・・</p> <p>居ることがあたりまえではない家族。 いま、もう一度 その思い、その願い それぞれの愛をしっかりと受け止めよう。 そして、自分からも愛を、注いでみよう。</p>
---	--